



A 00
6290

1
2
3
4
5
6
7
8
9
1
2
3
4
5

秋頭注連 二月三日 初めはよ

私人をもちり福のうめ僊影ついですまひすうに
里ふ汁のめ僊とせりやうなをいれられよものう

失事平癒 一日 仙酒番社注連

別あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり
あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり

一日 仙酒番社注連

あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり
あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり

あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり
あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり

あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり
あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり

柳病 仙酒番社注連

あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり
あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり

あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり
あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり

あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり
あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり

柳病 仙酒番社注連

あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり
あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり

柳病

あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり
あつてふりこきりあつてふりこきりあつてふりこきり

夕麻 二月五日 内子元号

[illegible]

寫經者

月十日 記成 聖武以後

梅花喜神譜

補蚊遺失 上社

1. 金もたふさそへ 金もたふさそへ 金もたふさそへ
 うもく 金もたふさそへ 金もたふさそへ 金もたふさそへ

水戶黃門考 就日被暎古今集有贈物

舊狀
謹具

壽燭

戴樹

長壽香

或百枝

毒

卷一

壽桃

超類

仙翁

養

毒酒

朋儔

牽中

賀敬

羅中興言承元國

右用赤色唐紙

賦短律一章恭奉祝

中陵前亞相占稀初度

七旬華旦月南極。懽儲精饒。蒲輪輶飲。楊木榮茂。

潤高乳 昂藝圃檀。秋名仁者元。惟壽何為最。光新

庚辰四月十三日

前權中納言西山源光國并
日蓮唐紙

月夜夢をうけて南より来た
てはふりかへ

山柳 義社

[illegible]

事水忘
十月十日
仙西元為

[illegible]

明月照我膝
月夜

光緒二十九年

八月廿四日
 九月十一日
 十月八日
 十一月五日
 十二月二日
 正月九日
 二月六日
 三月三日
 四月一日
 五月八日
 六月五日
 七月二日
 八月九日
 九月六日
 十月三日
 十一月十日
 十二月七日
 正月十四日
 二月十一日
 三月十八日
 四月十五日
 五月十二日
 六月九日
 七月六日
 八月十三日
 九月十日
 十月十七日
 十一月十四日
 十二月十一日
 正月十八日
 二月十五日
 三月二十二日
 四月十九日
 五月十六日
 六月十三日
 七月十日
 八月十七日
 九月十四日
 十月二十一日
 十一月十八日
 十二月十五日
 正月二十二日
 二月十九日
 三月二十六日
 四月二十三日
 五月二十日
 六月十七日
 七月十四日
 八月二十一日
 九月十八日
 十月二十五日
 十一月二十二日
 十二月十九日
 正月二十六日
 二月二十三日
 三月三十日
 四月二十七日
 五月二十四日
 六月二十一日
 七月十八日
 八月二十五日
 九月二十二日
 十月二十九日
 十一月二十六日
 十二月二十三日
 正月三十日
 二月二十七日
 三月二十四日
 四月二十一日
 五月十八日
 六月十五日
 七月十二日
 八月九日
 九月六日
 十月三日
 十一月十日
 十二月七日
 正月十四日
 二月十一日
 三月八日
 四月五日
 五月二日
 六月九日
 七月六日
 八月三日
 九月十日
 十月七日
 十一月四日
 十二月一日
 正月二十八日
 二月二十五日
 三月二十二日
 四月十九日
 五月十六日
 六月十三日
 七月十日
 八月七

廿余耳始能知

かきくけこ

山早秋 填日 池 名 郷

秋の神のいさかきくまのこころをいふ

恒報棧

9のふみきやふとちほく、さのねんねのに

野矢鹿

上
いふに、
いふに、

八月

萬のちかひなくしるす

海
道
圖

新嘉坡の月乃方共申す所
持記南

携私

曉きくし夢さる月ふもなきしらぬものゝ夜

萬悲心

[illegible]

李鍾志

ふもふもといふ種いふふ力つてふふふふふふ

芳林集

幸のたふれんがら
 ちのちのちのちのち

寄舟志

とつてつゝもさへいふ所のお母さんといふ人

旁社

[illegible]

山家味

1870

困居

しるすふりておのれをたゞしきものなり

珠珀浪

五ノ七

社印

海島志

擇紅葉

仁洞 王四山 紫衫移種在桐鄉
十月廿五日

蘇州府志卷之四

あはれむにふたふたのうらなひをいふ

曉餘寒

十月廿五日 留子庭

あなまはまゝにひきかへておぼろ月をみよ

主を養ふは孝なり
主を事ふるは忠なり

野矢齋

あまの月より夜ふらのきりぎりすの音乃よめあ
るきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

池米 十月廿四日 仙洞堂書

吹出のまの池のきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

野雪 十月廿四日 仙洞堂書

月より夜ふらのきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

年中三春 上社

月より夜ふらのきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

浦眺望 十月廿六日 仙洞堂書

月より夜ふらのきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

更夜指春 十月廿三日 仙洞堂書

月より夜ふらのきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

岡崎長 上社

月より夜ふらのきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

月市抄 十月廿四日 仙洞堂書

月より夜ふらのきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

月前抄

月より夜ふらのきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

越前年友 十月廿四日 仙洞堂書

月より夜ふらのきりぎりすの音乃よめあるきりぎりすの音乃よめあ

百首

春二十首

都早春

江上春風吹柳花 柳花飛雪滿江沙

山花

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

海邊花

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

綠花

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

柳花

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

原若葉

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

雨中梅

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

岸柳

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

春曉月

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

四句

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

春花

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

連筆花

春風吹綠柳花開 柳花飛雪滿江沙

閑花

あまのうきをわたりては美の月をたのむなりけりあはれのみ

花盛

はなはなをみればあはれをさるるにたふさふさうはなを

花埋

らるる花をうきとてさるるにたふさふさうはなを

野外難

きふしとてあはれをさるるにたふさふさうはなを

又花盛

あはれをうきとてさるるにたふさふさうはなを

庭難

あはれをうきとてさるるにたふさふさうはなを

江藤

あはれをうきとてさるるにたふさふさうはなを

又花盛

あはれをうきとてさるるにたふさふさうはなを

更夜

あはれをうきとてさるるにたふさふさうはなを

林新樹

あはれをうきとてさるるにたふさふさうはなを

卯花

あはれをうきとてさるるにたふさふさうはなを

山郭公

あはれをうきとてさるるにたふさふさうはなを

郭公頻

あはれをうきとてさるるにたふさふさうはなを

天のふゆをうゑて、春をうゑて、夏をうゑて、秋をうゑて

秋

里にありて、
 今迄に
 此の如く

福

あつたおとこは、物おのゝつゝ、おとこ

田家縣

[illegible]

史記

多々夜のおけりあるは福と悦ばずく雲のくち
寺月

24

稿月

月のやうなわが今をいふやうなわがを

湖上月

既乃氣の波、流ちつゝ、入るる所、あつて月、氣

卷之四

萬葉月

卷之六

大和書

清溪

ちやうど四角の骨を骨板はたき、

神遊

胡也時

杜景

...

村の東にありてはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

百代ののちもはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

とてはるる山に雲の浦の村の東にあり

わすれ

秋の

かたうちの山に雲の浦の村の東にあり

秋の

けしきもはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

わすれはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

わすれはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

わすれはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

わすれはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

わすれはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

わすれはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

わすれはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

わすれはるる山に雲の浦の村の東にあり

秋の

水石齋藏

十四日

內卷

を伴ふ

十月

爲勝はあまふもたれ今う歳を池へてまふ
 くるまふふしあに神力をくまふくまふのあふ
 くるまふふしあに神力をくまふくまふのあふ

池蘇

九六日 仙洞 為應云云

[illegible]

杜納涼

二月七日 田面社

[illegible]

震春秋

九日初卯家信

[illegible]

李通玄

孟子集注

[illegible]

竹春月

二月三日 仙洞寺 程以清 示 為 記

竹春月 二月三日 仙仙集 秋にふくま

和歷年

4

松應年
 今の去つてゐるの如き神やあはれおのゝ
 まゝさういふ胸のちゝあつたおとあつたあゝ

行上處

二日由水口經長沙至

[illegible]

劉茂獻

力字
由月
以

三、(四) 例、 $\frac{1}{2} \times \frac{1}{3} = \frac{1}{6}$ 、 $\frac{1}{4} \times \frac{1}{5} = \frac{1}{20}$ 、 $\frac{1}{6} \times \frac{1}{7} = \frac{1}{42}$ 、 $\frac{1}{8} \times \frac{1}{9} = \frac{1}{72}$ 、 $\frac{1}{10} \times \frac{1}{11} = \frac{1}{110}$ 、 $\frac{1}{12} \times \frac{1}{13} = \frac{1}{156}$ 、 $\frac{1}{14} \times \frac{1}{15} = \frac{1}{210}$ 、 $\frac{1}{16} \times \frac{1}{17} = \frac{1}{272}$ 、 $\frac{1}{18} \times \frac{1}{19} = \frac{1}{342}$ 、 $\frac{1}{20} \times \frac{1}{21} = \frac{1}{420}$ 、 $\frac{1}{22} \times \frac{1}{23} = \frac{1}{506}$ 、 $\frac{1}{24} \times \frac{1}{25} = \frac{1}{600}$ 、 $\frac{1}{26} \times \frac{1}{27} = \frac{1}{702}$ 、 $\frac{1}{28} \times \frac{1}{29} = \frac{1}{812}$ 、 $\frac{1}{30} \times \frac{1}{31} = \frac{1}{930}$ 、 $\frac{1}{32} \times \frac{1}{33} = \frac{1}{1056}$ 、 $\frac{1}{34} \times \frac{1}{35} = \frac{1}{1190}$ 、 $\frac{1}{36} \times \frac{1}{37} = \frac{1}{1332}$ 、 $\frac{1}{38} \times \frac{1}{39} = \frac{1}{1482}$ 、 $\frac{1}{40} \times \frac{1}{41} = \frac{1}{1640}$ 、 $\frac{1}{42} \times \frac{1}{43} = \frac{1}{1806}$ 、 $\frac{1}{44} \times \frac{1}{45} = \frac{1}{1980}$ 、 $\frac{1}{46} \times \frac{1}{47} = \frac{1}{2162}$ 、 $\frac{1}{48} \times \frac{1}{49} = \frac{1}{2352}$ 、 $\frac{1}{50} \times \frac{1}{51} = \frac{1}{2550}$ 、 $\frac{1}{52} \times \frac{1}{53} = \frac{1}{2756}$ 、 $\frac{1}{54} \times \frac{1}{55} = \frac{1}{2970}$ 、 $\frac{1}{56} \times \frac{1}{57} = \frac{1}{3192}$ 、 $\frac{1}{58} \times \frac{1}{59} = \frac{1}{3422}$ 、 $\frac{1}{60} \times \frac{1}{61} = \frac{1}{3660}$ 、 $\frac{1}{62} \times \frac{1}{63} = \frac{1}{3906}$ 、 $\frac{1}{64} \times \frac{1}{65} = \frac{1}{4160}$ 、 $\frac{1}{66} \times \frac{1}{67} = \frac{1}{4422}$ 、 $\frac{1}{68} \times \frac{1}{69} = \frac{1}{4692}$ 、 $\frac{1}{70} \times \frac{1}{71} = \frac{1}{4970}$ 、 $\frac{1}{72} \times \frac{1}{73} = \frac{1}{5256}$ 、 $\frac{1}{74} \times \frac{1}{75} = \frac{1}{5550}$ 、 $\frac{1}{76} \times \frac{1}{77} = \frac{1}{5852}$ 、 $\frac{1}{78} \times \frac{1}{79} = \frac{1}{6162}$ 、 $\frac{1}{80} \times \frac{1}{81} = \frac{1}{6480}$ 、 $\frac{1}{82} \times \frac{1}{83} = \frac{1}{6806}$ 、 $\frac{1}{84} \times \frac{1}{85} = \frac{1}{7140}$ 、 $\frac{1}{86} \times \frac{1}{87} = \frac{1}{7482}$ 、 $\frac{1}{88} \times \frac{1}{89} = \frac{1}{7832}$ 、 $\frac{1}{90} \times \frac{1}{91} = \frac{1}{8190}$ 、 $\frac{1}{92} \times \frac{1}{93} = \frac{1}{8556}$ 、 $\frac{1}{94} \times \frac{1}{95} = \frac{1}{8930}$ 、 $\frac{1}{96} \times \frac{1}{97} = \frac{1}{9312}$ 、 $\frac{1}{98} \times \frac{1}{99} = \frac{1}{9702}$ 、 $\frac{1}{100} \times \frac{1}{101} = \frac{1}{10100}$ 、 $\frac{1}{102} \times \frac{1}{103} = \frac{1}{10506}$ 、 $\frac{1}{104} \times \frac{1}{105} = \frac{1}{10920}$ 、 $\frac{1}{106} \times \frac{1}{107} = \frac{1}{11342}$ 、 $\frac{1}{108} \times \frac{1}{109} = \frac{1}{11772}$ 、 $\frac{1}{110} \times \frac{1}{111} = \frac{1}{12210}$ 、 $\frac{1}{112} \times \frac{1}{113} = \frac{1}{12656}$ 、 $\frac{1}{114} \times \frac{1}{115} = \frac{1}{13110}$ 、 $\frac{1}{116} \times \frac{1}{117} = \frac{1}{13572}$ 、 $\frac{1}{118} \times \frac{1}{119} = \frac{1}{14042}$ 、 $\frac{1}{120} \times \frac{1}{121} = \frac{1}{14520}$ 、 $\frac{1}{122} \times \frac{1}{123} = \frac{1}{15006}$ 、 $\frac{1}{124} \times \frac{1}{125} = \frac{1}{15500}$ 、 $\frac{1}{126} \times \frac{1}{127} = \frac{1}{15992}$ 、 $\frac{1}{128} \times \frac{1}{129} = \frac{1}{16492}$ 、 $\frac{1}{130} \times \frac{1}{131} = \frac{1}{16990}$ 、 $\frac{1}{132} \times \frac{1}{133} = \frac{1}{17496}$ 、 $\frac{1}{134} \times \frac{1}{135} = \frac{1}{18000}$ 、 $\frac{1}{136} \times \frac{1}{137} = \frac{1}{18512}$ 、 $\frac{1}{138} \times \frac{1}{139} = \frac{1}{19032}$ 、 $\frac{1}{140} \times \frac{1}{141} = \frac{1}{19560}$ 、 $\frac{1}{142} \times \frac{1}{143} = \frac{1}{20096}$ 、 $\frac{1}{144} \times \frac{1}{145} = \frac{1}{20640}$ 、 $\frac{1}{146} \times \frac{1}{147} = \frac{1}{21182}$ 、 $\frac{1}{148} \times \frac{1}{149} = \frac{1}{21732}$ 、 $\frac{1}{150} \times \frac{1}{151} = \frac{1}{22290}$ 、 $\frac{1}{152} \times \frac{1}{153} = \frac{1}{22856}$ 、 $\frac{1}{154} \times \frac{1}{155} = \frac{1}{23430}$ 、 $\frac{1}{156} \times \frac{1}{157} = \frac{1}{24012}$ 、 $\frac{1}{158} \times \frac{1}{159} = \frac{1}{24602}$ 、 $\frac{1}{160} \times \frac{1}{161} = \frac{1}{25200}$ 、 $\frac{1}{162} \times \frac{1}{163} = \frac{1}{25806}$ 、 $\frac{1}{164} \times \frac{1}{165} = \frac{1}{26420}$ 、 $\frac{1}{166} \times \frac{1}{167} = \frac{1}{27042}$ 、 $\frac{1}{168} \times \frac{1}{169} = \frac{1}{27672}$ 、 $\frac{1}{170} \times \frac{1}{171} = \frac{1}{28310}$ 、 $\frac{1}{172} \times \frac{1}{173} = \frac{1}{28956}$ 、 $\frac{1}{174} \times \frac{1}{175} = \frac{1}{29610}$ 、 $\frac{1}{176} \times \frac{1}{177} = \frac{1}{30272}$ 、 $\frac{1}{178} \times \frac{1}{179} = \frac{1}{30942}$ 、 $\frac{1}{180} \times \frac{1}{181} = \frac{1}{31620}$ 、 $\frac{1}{182} \times \frac{1}{183} = \frac{1}{32306}$ 、 $\frac{1}{184} \times \frac{1}{185} = \frac{1}{32990}$ 、 $\frac{1}{186} \times \frac{1}{187} = \frac{1}{33682}$ 、 $\frac{1}{188} \times \frac{1}{189} = \frac{1}{34382}$ 、 $\frac{1}{190} \times \frac{1}{191} = \frac{1}{35090}$ 、 $\frac{1}{192} \times \frac{1}{193} = \frac{1}{35806}$ 、 $\frac{1}{194} \times \frac{1}{195} = \frac{1}{36530}$ 、 $\frac{1}{196} \times \frac{1}{197} = \frac{1}{37262}$ 、 $\frac{1}{198} \times \frac{1}{199} = \frac{1}{38002}$ 、 $\frac{1}{200} \times \frac{1}{201} = \frac{1}{38750}$ 、 $\frac{1}{202} \times \frac{1}{203} = \frac{1}{39506}$ 、 $\frac{1}{204} \times \frac{1}{205} = \frac{1}{40270}$ 、 $\frac{1}{206} \times \frac{1}{207} = \frac{1}{41042}$ 、 $\frac{1}{208} \times \frac{1}{209} = \frac{1}{41820}$ 、 $\frac{1}{210} \times \frac{1}{211} = \frac{1}{42606}$ 、 $\frac{1}{212} \times \frac{1}{213} = \frac{1}{43400}$ 、 $\frac{1}{214} \times \frac{1}{215} = \frac{1}{44202}$ 、 $\frac{1}{216} \times \frac{1}{217} = \frac{1}{45010}$ 、 $\frac{1}{218} \times \frac{1}{219} = \frac{1}{45826}$ 、 $\frac{1}{220} \times \frac{1}{221} = \frac{1}{46650}$ 、 $\frac{1}{222} \times \frac{1}{223} = \frac{1}{47482}$ 、 $\frac{1}{224} \times \frac{1}{225} = \frac{1}{48320}$ 、 $\frac{1}{226} \times \frac{1}{227} = \frac{1}{49162}$ 、 $\frac{1}{228} \times \frac{1}{229} = \frac{1}{49992}$ 、 $\frac{1}{230} \times \frac{1}{231} = \frac{1}{50830}$ 、 $\frac{1$

柳菰

二月十二。信國あな尾を以

らまゐり玉のきこりも柳のいとあらぬそとに
吹く風は春のあふれをうけあひつる風のきこ

柳のきこり

柳のきこり

あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ
あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ

柳のきこり

柳のきこり

あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ
あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ

柳のきこり

柳のきこり

あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ
あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ

柳のきこり

柳のきこり

あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ
あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ

柳のきこり

あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ
あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ

柳のきこり

あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ
あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ

柳のきこり

柳のきこり

あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ
あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ

柳のきこり

あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ
あきけはけりてあふれをうけあひつる風のきこ

ふあうき...
新...
あはれ...
あはれ...

い...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...

三月廿二

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

歌印花

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

歌印花

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

夏山

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

歌印花

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

知床長友

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

五秋胡

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

吉原

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

女郎花

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

原簿

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

花柳

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

海邊

あはれやあはれといふあはれをいふはうらなひのあはれ

八月十九夜

もどかしきふりぬ月をみくらてふ魚人のねがひ

清月

初月し月あつたけはあつたけのうらみのねがひ

野草秋枯

古のねもはらけつたははらけつたはらけつたはらけ

古菊

もれもれとつたははらけつたははらけつたははらけ

梅お歌

一ひらきつたははらけつたははらけつたははらけ

春秋云

いづれもつたははらけつたははらけつたははらけ

国時雨

飛もたつたははらけつたははらけつたははらけ

清きまき

波はゆつたははらけつたははらけつたははらけ

懸梅氷

と崩つたははらけつたははらけつたははらけ

柏敷

まじりつたははらけつたははらけつたははらけ

葉中書

うらつたははらけつたははらけつたははらけ

将風風

うらつたははらけつたははらけつたははらけ

閑居歳暮

うらつたははらけつたははらけつたははらけ

亭雨雲

うらつたははらけつたははらけつたははらけ

事宿妻を

うづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

事宿妻を

宿妻のうづりやうのむく宿妻のうづりやうのむくしよゆき

山家庵

世の人はよくよくの世に生れしはしるべきなり

うづまきりくちをれあふははるすふをせむいなり
事通述懐

末のせりういをわてあふははるすふをせむいなり
妓女對鏡

あふははるすふをれあふははるすふをせむいなり

恩教

うづまきりくちをれあふははるすふをせむいなり

恒吉

うづまきりくちをれあふははるすふをせむいなり

寄嚴祝

うづまきりくちをれあふははるすふをせむいなり

長河集

仙閑 鶴林はふ 九月廿九日

閑つさきさきめらりし河のせむいなるあふははるすふをせむいなり

老玄

日吉書院

うづまきりくちをれあふははるすふをせむいなり

事電祝

長三後書すすす 女子あふははるすふをせむいなり

うづまきりくちをれあふははるすふをせむいなり

早涼室

廿六日 仙閑はふ 九月廿九日

うづまきりくちをれあふははるすふをせむいなり

山中集

十月八日 仙閑はふ 九月廿九日

うづまきりくちをれあふははるすふをせむいなり

桐葉思惠 雲南

あつたなをさつたりとてしつたあつたを
うけつたつたつたつたつたつたつたつた

秋聲聲夢

十月廿日 秋聲聲夢

三つたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつた

冬月次

六日 旧西暦

つたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつた

遷封地

つたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつた

鹿

十日 旧西暦 十月廿日 秋聲聲夢

つたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつた

秋歌

十月廿日 秋歌

つたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつた

秋歌

つたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつた

秋歌

十月廿日 秋歌

つたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつた

入秋

十月廿日 入秋

つたつたつたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつたつたつた

祐馬 二月二日 一巻 巻末白子

答とあるも、うゝ人等の百なりといふのも、あはれ

春行記 玉体あり

まゝ、何きまゝなりと、あはれとせん、せうと、あはれとせん、あはれとせん

と外傳 二月十一日 瑞臨社にふ

月をいふといふ、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

と、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

都

今、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

春

あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

佐々木百香和秋

春

あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

明上朝庭

あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん、あはれとせん

あはれとせん

あつたすしにたれぬききふこの花はあま

將申國寫

きくそくわんをくちも花柳のやうきふりき

隣家竹馬

ふさ竹のゆきあふく中へはうきふりき

田舎草

けきねあふのふきふりきふりきふりき

野分草

あふりきふりきふりきふりきふりき

山崎梅花

松花あふりきふりきふりきふりき

梅香花風

けきふりきふりきふりきふりき

水邊古柳

いふきふりきふりきふりきふりき

雨中梅花

あふりきふりきふりきふりき

野分草

このふりきふりきふりきふりき

遠寺山花

あふりきふりきふりきふりき

枕邊草

花にけきふりきふりきふりき

野分草

あふりきふりきふりきふりき

月上春月

その娘の社名は清入親王の月宮宮子なり
 暹羅御局

陳兆昌

在祀隨風

春風隨風

今より空て此の世に改むる事なれど
梅邊に

松邊館

山崎のてふ如くは、**呼吸器を以てして**の谷は、**草薙**
舟中言書

再中書

[illegible]

十香

和氣隱居

通に之を重くし、卯を爲すや、乃ちよめるを

福國兆云

三つともあつて三つを動かすの如くして動かす

山家歌

11. The following are the names of the persons who have been appointed to the various committees of the Board of Directors:

池胡藹蒲

あふまきける紙とちりあきうしはゆめと

不始明矣

何れも、あつちまで、さう、なつてゐる。

五福臨門

[illegible]

杜五月的

[illegible]

即夕有夢

好山好水好文章，
好色好財好富貴。

個底雲火

月いとおもうと見まつて龍のいふいふおねあふ

けきつら神もあはれいふいふの日にあつていふいふ

秋子首

初秋朝風

秋きそとつと朝のいふおねあふいふいふいふいふ

洞月せり

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

野きり森

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

山家初風

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

海上初月

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

松岡夜月

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

江心見月

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

草花映月

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

明路惜月

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

鹿角映月

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

田家結月

朝ふむいふ田舎のふかきうらうらと静けさのふかき

とて静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

静けさのふかきうらうらと静けさのふかき

上朝の事と申すは、
海老名

と、
水郷墨

水郷墨
御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

御上

吳鍾宇

疑真偽云

疑真偽也

由よりこころをいかにかきかへてのめりいふ

五季增志

一、日本
二、朝鮮
三、台灣
四、澎湖
五、金門
六、馬祖

被狀賊急

神獸神意
いりてゐるものなりとていふ

途中望

大正十一年三月一日

後門

後門の
引

志恒可也

志作可也
冬よりよきものなり
冬よりよきものなり

依之社

何れにせよ、
あつたはるかに

陽遠昭志

西遊記
と云ふよりいふはたとてそとにのほつてゐるもの

借人名字

何んぞと
うんぞのめをさるやうにやうにやうに

绝不知意

絶不承認
中々

一、恨絕意

一、恒張子

雜子首

曉更寢寬

心志の好

薄雲如風

ふとすねて

とては、
百中系

西中紀

雨中餘化
晴る命をわのさきつは我にもあるの哉

家来書

すきつ松のうらなひも成るにのりおきぬきつ

逆目懐舊

あけなるもあわつてふれじつにふつとふ

社類祝言

海よりけりくものひき雲のひきくわつは海神

愚々十七月

あつてうらなひのちねのちねのちね

あつて

うらなひのちねのちねのちね

あつてあつてあつて

元禄十五年

試筆

すき

刘家乃代いふてうらなひのちねのちねのちね

通頼云の歳七十五の家長とあるすきすきすき

うらなひのちねのちねのちね

光七十二

元日呼ぶ家来達すきすきすき

うらなひのちねのちねのちね

は山春典々々 二日 松岡

まゐるにうらなひのちねのちねのちね

松岡にうらなひのちねのちねのちね

松岡にうらなひのちねのちねのちね

松岡に

うらなひのちねのちねのちね

かりてゐる。あつたやうなまゐりのつゝのもち

松藤 七日 松岡路社に往来

おれ係るゝあつたうらむいづもあつたやうな
まゐりありやあつたうらむいづもあつたやうな

言ふこと 日 松岡路社

あつたやうなまゐりのつゝのもち
あつたやうなまゐりのつゝのもち

夢遊長 日 松岡路社

あつたやうなまゐりのつゝのもち
あつたやうなまゐりのつゝのもち

松岡路社 日 松岡路社

あつたやうなまゐりのつゝのもち
あつたやうなまゐりのつゝのもち

夢遊長 日 松岡路社

あつたやうなまゐりのつゝのもち
あつたやうなまゐりのつゝのもち

あつたやうなまゐりのつゝのもち
あつたやうなまゐりのつゝのもち

夢遊長 日 松岡路社

あつたやうなまゐりのつゝのもち
あつたやうなまゐりのつゝのもち

夢遊長 日 松岡路社

あつたやうなまゐりのつゝのもち
あつたやうなまゐりのつゝのもち

夢遊長 日 松岡路社

あつたやうなまゐりのつゝのもち
あつたやうなまゐりのつゝのもち

夢遊長 日 松岡路社

あつたやうなまゐりのつゝのもち
あつたやうなまゐりのつゝのもち

自號立仁十子 仁嗣臨終時語

日知錄

胡氏書

印林孝子石所 三月六日 翁老妻頓首 具房風雪

水

三自學方
仙洞裏

三自學方
仙洞裏

思惠

春夜
十七日
內而外

平松云
月二日
仙岡踏社後

花時鞍馬夕
日
笠
草
社

引かこけりて動も驚かず、驚くも其乃一時

去といふ人々も、
首をいれ、
内面、
左に

[illegible]

楊川
五月十日

弁河山をくぐりて陽をぬく。物けの精をくぐりて
 うねをぬく。うねをぬく。うねをぬく。うねをぬく。
 人伝教と云ふ。 偏陽社と云ふ。

人傳郭么 十六
偏鴨社 序

[illegible]

晴雨 雲雨江 萬物生々々

刻々として其の如くも思ふに、
 其の如くも思ふに、

海通院 寺 仙洞

11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846.

正月
 二月
 三月
 四月
 五月
 六月
 七月
 八月
 九月
 十月
 十一月
 十二月

おれつゝも喜む月の御心あはれなれど
あまのこをれまゝとあまの影をうけし月

六月十日 稿 寄日社 啓 自七月迄

[illegible]

十七日
但爾臨死以汪某為友自甘為之

[illegible]

閩中痛風 方 四月以爲

胡金の種より出くし、扇を以て鶴の種を

以取大損極之故作不出生了

[illegible]

柳江作也

[illegible]

内聖外王

夜橋堂札
 全そめきひりの就はあつてそゝあつてを
 せしむるをわすれてあつてあつてあつてあつて

1

馬とあひたる中をまゝあふ

中々此の如く云ふ事ある事なき

青島編輯部

引くは、高きより、稲穂は、水も、あふれ、のび、
いふ、ふた、を、さ、う、た、ま、す、は、稲、の、こ、の、こ、の、地、

人多善

御幸して空わう新く水あやのまはりもてねむるのた
なけとふ麓のそと城女の夢わうたりこの羽衣

可
何
あ
ん
と
も

[illegible]

但用而先急

作のふれ初しく、後教あるを以て、
其の下り日、ゆかりきるく、
まゝに下り日、ゆかりきるく、

耕道庵

秋をこめて思ふなそこのけふといふもなかなかな

為度権記

十八日 仙崎春日社様

花をみればけふの朝もあけぬとて思ふもなかなかな

初秋

宜旨お祈り 家様

いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな

仙崎春日社様 作歌とて思ふもなかなかな

愚歌

いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな
いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな
いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな
いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな

朝海路

七日 仙崎春日社様

いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな
いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな

春寒

九日 仙崎春日社様

いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな
いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな

暮山月

十一日 仙崎春日社様

いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな
いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな

夕暮

十三日 仙崎春日社様

いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな
いづれかと思ふもなかなかなとて思ふもなかなかな

推乃善辭

仙崎春日社様

晴雨云 十月十二日 仙術家多々を以

晴雨云 十月十二日 仙術家多々を以

冬夜 十月 日曜 仙術家

冬夜 十月 日曜 仙術家

竹葉園 十月八日 日曜 仙術家

竹葉園 十月八日 日曜 仙術家

晴雪 十月 日曜 仙術家

晴雪 十月 日曜 仙術家

元禄十六年

十月二十

元日試筆

元日試筆

梅花風物 十月 仙術家

梅花風物 十月 仙術家

秋風 十月 仙術家

秋風 十月 仙術家

陽春 十月 仙術家

陽春 十月 仙術家

陽成字 十月 仙術家

梯のまづれ ちち 由多子御文心ほふ

利をとりけりては、ふたつにわかれ、
秋の七より八のころ、

味應 芥子 白 香齋

[illegible]

すゝお母のたまひ

[illegible]

あつたにあらうか

春目遊々 十五日 松岡孝三社印

春日遊
五日
留春社

[illegible]

江戸之麗
寸日自仙洞
城下外
とて富家

[illegible]

事門應

[illegible]

新秋病
丁酉七月廿四日

けりまのちをうゝまゐり、風いそが様のまゐりし
 りすゑのせふ、乃ちめしきやうなるまゐりしものゝち

更衣 寸一 青い袖に縁糸

神のさしえりくみなるものふにきねちよ
きねちよなるものふにきねちよ

裁秋 子方 仙國品庭

仁國西庭

歳時よりいふ底もふりてふゝなるにありてまはせしむる
こゝにけいひぬかりてふりてふりてまはせしむるにありてまはせしむる

後文梅 五月三。おとろけ林あり 行幸歌供

月よりいふ底もふりてふゝなるにありてまはせしむる
こゝにけいひぬかりてふりてふりてまはせしむるにありてまはせしむる

照射 五月三。おとろけ林あり 行幸歌供

いふ底もふりてふゝなるにありてまはせしむる
こゝにけいひぬかりてふりてふりてまはせしむるにありてまはせしむる

老動物 五月三。おとろけ林あり 行幸歌供

いふ底もふりてふゝなるにありてまはせしむる
こゝにけいひぬかりてふりてふりてまはせしむるにありてまはせしむる

年輪志 五月三。おとろけ林あり 行幸歌供

いふ底もふりてふゝなるにありてまはせしむる
こゝにけいひぬかりてふりてふりてまはせしむるにありてまはせしむる

兼程表 五月三。おとろけ林あり 行幸歌供

いふ底もふりてふゝなるにありてまはせしむる
こゝにけいひぬかりてふりてふりてまはせしむるにありてまはせしむる

夏日 五月三。おとろけ林あり 行幸歌供

いふ底もふりてふゝなるにありてまはせしむる
こゝにけいひぬかりてふりてふりてまはせしむるにありてまはせしむる

兼程表 五月三。おとろけ林あり 行幸歌供

いふ底もふりてふゝなるにありてまはせしむる
こゝにけいひぬかりてふりてふりてまはせしむるにありてまはせしむる

林下曲 五月三。おとろけ林あり 行幸歌供

いふ底もふりてふゝなるにありてまはせしむる
こゝにけいひぬかりてふりてふりてまはせしむるにありてまはせしむる

都立春 五月三。おとろけ林あり 行幸歌供

。まきわのいへうとあといふ所ののちとあふう

林解 信濃社に在る

。ちりきりおろしとけいしはあふあることとあふう
まきわとちりきりおろしはあふあることとあふう

家ニセウ セウニセウ

。あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう
あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう

龍水 すゐ。信濃社に在る

。うらみとあふうとあふうとあふうとあふう
うらみとあふうとあふうとあふうとあふう

常留應 すゐ。信濃社に在る

。あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう
あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう

信濃社に在る 信濃社に在る

。あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう
あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう

初稿 八月より九月まで

。あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう
あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう

。あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう
あつていふとあふうとあふうとあふうとあふう

九月すゐ。信濃社に在る 信濃社に在る

賈永元

元禄十七年

二月廿五 仕施 寺子安

試筆

しるしとてしるしぬねて庭も春もあつたやとてのしるし

百氏祝 公月土日松岡安様

。 様はのいのちをなれうきあひうらなれうきあひを
。 かのうきあひをなれうきあひうらなれうきあひを
。 情大略 さいり 鶴新田様

。 まいぬねをうきあひうらなれうきあひを
。 ぬねをうきあひうらなれうきあひを

深衣梅 さいり 鶴新田

。 あまの夜をうきあひうらなれうきあひを
。 ぬねをうきあひうらなれうきあひを

風来揚柳邊 さる。 三葉

〇 夕暮のついでに 柳の影を 水面に映し 夕暮の光を 水面に映し

〇 まるや 柳の影を 水面に映し 夕暮の光を 水面に映し

竹馬 ま。 仙南天に寄

〇 まるや 柳の影を 水面に映し 夕暮の光を 水面に映し

〇 卯花満開 二月二。 春の光景

〇 柳の影を 水面に映し 夕暮の光を 水面に映し

〇 海邊 九日 卯花 満開

〇 海邊の心は 夕暮の光を 水面に映し 夕暮の光を 水面に映し

〇 まるや 柳の影を 水面に映し 夕暮の光を 水面に映し

雪去酒

〇 雪去酒 十二。 霜枯社に寄

〇 雪去酒 十二。 霜枯社に寄

〇 雪去酒 十二。 霜枯社に寄

〇 雪去酒 十二。 霜枯社に寄

〇 雪去酒 十二。 霜枯社に寄

〇 雪去酒 十二。 霜枯社に寄

〇 雪去酒 十二。 霜枯社に寄

〇 雪去酒 十二。 霜枯社に寄

雪去酒 十二。 霜枯社に寄

〇 雪去酒 十二。 霜枯社に寄

うらなふよりまうる秋のきこゆる海雲のけしき

忍海雲 廿二 内水に飛雲の海雲

はらけやふくまふゆふのうらなふしに秋のけしき

うらなふしに秋のけしき

あつらひの島のかしこむるあつらひの島のかしこむる

國氏乃みそ秋 廿三 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十

餘雲風 三月廿日 他國ある云

あつらひの島のかしこむるあつらひの島のかしこむる

恨板絶意 廿四 同前新註五

うらなふよりまうる秋のきこゆる海雲のけしき

待花 九 同前新註五

あつらひの島のかしこむるあつらひの島のかしこむる

花有香色 十 同前新註五

あつらひの島のかしこむるあつらひの島のかしこむる

花始開 十八 同前新註五

あつらひの島のかしこむるあつらひの島のかしこむる

野外難 廿五 同前新註五

。あはれもあつたおのゝとてまじりあふらんわ
るもあつたおのゝとてまじりあふらんわ

月映花

いよむくあつた月を花ついでにまじりあふらんわ
こゝろいよむくあつた月を花ついでにまじりあふらんわ

あふらん

。あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ
あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ

あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ

いよむくあつた月を花ついでにまじりあふらんわ
こゝろいよむくあつた月を花ついでにまじりあふらんわ

あふらん

あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ
あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ

お年まじりあつたおのゝとてまじりあふらんわ
お年まじりあつたおのゝとてまじりあふらんわ
お年まじりあつたおのゝとてまじりあふらんわ
お年まじりあつたおのゝとてまじりあふらんわ
お年まじりあつたおのゝとてまじりあふらんわ

あふらん

。あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ
あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ

あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ

あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ
あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ

あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ
あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ

。あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ
あふらんあふらんあつたおのゝとてまじりあふらんわ

夏の間よりさういふはるも後より花や木のさきや

秋後宿 サセヨき有秋の宿

引けりいふはるも花や木のさきや

リ苗代 五月四日田舎

引けりいふはるも花や木のさきや

引けりいふはるも花や木のさきや

引けりいふはるも花や木のさきや

曉夢 十日仙岡春日社西注本

引けりいふはるも花や木のさきや

雪消氷又解 十九日仙岡春日社西注本

引けりいふはるも花や木のさきや

曉夢 十日仙岡春日社西注本

引けりいふはるも花や木のさきや

雪消氷又解 十九日仙岡春日社西注本

雪消氷又解 十九日仙岡春日社西注本

引けりいふはるも花や木のさきや

里ノ燈籠に青ノ草

星まつるをふれ應に露あやふとめりしうもむの燈
今にせし燈籠をあらうとせむとてあやふとめりしうもむの燈

海上云

七月廿一日 仙岡生りみづ

さうさうと大川をいけくつとせよと波にのりて海原

浦にのりて浪に入りたりと波にのりて仲の白雲

葛風

青 旧稿有社 星り八月の燈籠

あやふとめりしうもむの燈籠をあらうとせむとてあやふとめりしうもむの燈

初秋期

八月廿一日 星り八月の燈籠

星まつるをふれ應に露あやふとめりしうもむの燈

青木云

あやふとめりしうもむの燈籠をあらうとせむとてあやふとめりしうもむの燈

浮遊鏡

貞孝 仙岡生りみづ

あやふとめりしうもむの燈籠をあらうとせむとてあやふとめりしうもむの燈

都早云

八月廿一日 星り八月の燈籠

あやふとめりしうもむの燈籠をあらうとせむとてあやふとめりしうもむの燈

底云

八月廿一日 星り八月の燈籠

あやふとめりしうもむの燈籠をあらうとせむとてあやふとめりしうもむの燈

中院源通はく有る威増程の今春又初は旧府の家
越千衆人告養重共當所謂兒童誦君寵走卒知

司馬者乎非其人則何與以聲或余同業雖不堪
飲躍之至固奉賀詩一首述寸忱云尔

數世幾平台枕 家風連綿人 都郭仰瞻石 東傳官祿壽

叔金重種孫書

和

わのそふあひのこをそふとあふさうあふさうと

小東家情中も領地の情ゆふさういふさういふ

わうい

ふまの事ゆふさういふあふあふのこをそふとあふさういふ

進むさうさうあふさういふ

をふさうあふさういふあふあふあふのこをそふとあふさういふ

福さういふ牡丹をあふさういふさういふさういふさういふ

とゆふさういふ

うさうさういふさういふさういふさういふさういふさういふ

林有夏

とあふあふ

権は老教を

修助ふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ

寺南祝

主馬さういふ

かきうさういふさういふさういふさういふさういふさういふ

あふあふのこをそふさういふさういふさういふさういふさういふ

海五月

九月十三夜 さういふ

さういふ月いさういふさういふさういふさういふさういふさういふ

はさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ

あふさういふさういふさういふさういふさういふさういふさういふ

さういふ

十九日仙岡稲荷社にて

百済水なる所にもよは秋のそとにくみ水とてなり

移るの移るいふもあはれなる所にあはれなる所なり

水 土月廿四日

いふの移るあはれなる所なりいふの移るあはれなる所なり

更食

いふの移るあはれなる所なりいふの移るあはれなる所なり

恨

いふの移るあはれなる所なりいふの移るあはれなる所なり

恨

いふの移るあはれなる所なりいふの移るあはれなる所なり

恨

いふの移るあはれなる所なりいふの移るあはれなる所なり

恨

いふの移るあはれなる所なりいふの移るあはれなる所なり

恨

いふの移るあはれなる所なりいふの移るあはれなる所なり

恨

いふの移るあはれなる所なりいふの移るあはれなる所なり

いふの移るあはれなる所なりいふの移るあはれなる所なり

判りなくまゐるなり 中二のいふにうたはせしむ
青あはれや少ねのけりうつてあふよしひももつるなり
もてし府まゐる百をわたりあはれとて神く

富神龍 二頁二。おや さまはま
男あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

国教歌枕 万。か他同 万。か他同
あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

朝晩歌 万。か他同
あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

半歌 万。か他同
あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

尋ね 万。か他同
あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

あはれをくすの事候ふ 七羽衣のつり ありつてわいも
あまのうけあはれはあまのうけあはれとてあまのうけあはれとて

歸鶴和春

秋元但馬守前守領分入同郡三芳野所領

四月廿七日 赤雲白雲 改新事吹和等
 秋盛

市南署 仙洞橋新拔江佐木 佐川
 仙洞橋新拔江佐木 佐川
 仙洞橋新拔江佐木 佐川

いへきまふゝゐるさくをたうす居るいのちの人
いひふたはくもするちうさるあはれなきに在る人

思社事 幸好 豫身可也 取細之和乎 三石室以

五月十五日 去月吉日社祭今月七

松の葉をわらへてはなれぬとて
まじりてはなれぬとてはなれぬとて

杜新樹

同十廿
仙洞為屋宇

此は乃ち歌に云ふとて生田の杜に杜を云ふは
と云ふに云ふは歌にも云ふ杜を云ふは杜
一の縁に云ふは云ふ杜の杜に云ふは云ふ

長橋橋志記 林丘寺記

五月廿五日 弘洞稿 秋法筆

今とせは秋のふゆ、ものもほろこし、福あふみのちやう
うけもみぢき、三とせまた三のむすめ、りくとめく

楊川欲曙 日七廿 海老の目

この戸よりぬき入伊勢に橋をたつるをさしきたる
と云ふは橋川の所より今一里ばかりなり

田姓 五月七日 福新神社御祭

今より馬にあらはれし御まはし門田にやむし姓をくすわ
きとふの黄衣のしるしに因りてあらはれしと云ふ姓なるを

市部云 十日春日社

別の市部御まはし市部なるをくすわ人ありて市部と
まじりて市の中ありし姓をくすわの御まはしとて人あり

朝寄 十三日 田部云 依作子氏姓

いふとくすわの御まはしとて市部の御まはしとて人あり
かきとくすわの御まはしとて市部の御まはしとて人あり

米結 六月四日 仙洞松尾社御祭 徳新寺御祭 徳新寺
三年くすわの御まはしとて市部の御まはしとて人あり

池にともくすわの御まはしとて市部の御まはしとて人あり
やとくすわの御まはしとて市部の御まはしとて人あり

曉更篇 月日 千吉社

歩みくすわの御まはしとて市部の御まはしとて人あり
うの御まはしとて市部の御まはしとて人あり

神秋 十月四日 徳新寺御祭

生ありて二枚の御まはしとて市部の御まはしとて人あり
法人の御まはしとて市部の御まはしとて人あり

連橋風 月日 徳新寺御祭

いづのくにたてし御まはしとて市部の御まはしとて人あり
つてし御まはしとて市部の御まはしとて人あり

草花 七月十日 仙洞松尾社御祭

折にともくすわの御まはしとて市部の御まはしとて人あり
このの御まはしとて市部の御まはしとて人あり

後書帳忘旧 壬午夏

うらなを人の心よりうつしおめをみたりとのこと記
きとてうらなを人の心よりうつしおめをみたりとのこと記

初秋書 八月三日 卯卯書

松山と朝の霞をみたり松の風をみたり

年終書

人々の心よりうつしおめをみたりとのこと記

群中書 卯卯書

あけをみたり松の風をみたり

書中書 卯卯書

あけをみたり松の風をみたり

あけをみたり松の風をみたり

亭風忘旧 壬午夏

あけをみたり松の風をみたり

湖上月 壬午夏

あけをみたり松の風をみたり

田家書

あけをみたり松の風をみたり

曉更書

あけをみたり松の風をみたり

終日見菊

重陽

あけをみたり松の風をみたり

ふくむをくらふかへりいふと福是なり

年秋迄

十月廿日
致同好社函

別ひけり恨いありあまうにふかき心
 づもあはれとてをささつてはうと
 味心亭 甲子癸卯

水心亭

平野弘

里よりつづぬまゐりの河原へくひをあらたきのみまゐ
てふたの河原へみゝまゐりてふたの河原へみゝまゐり

春高

十二月六日
板尾社印

市といふまゝのやうな町にして居るやうなところと云ふも
 多ういふまゝのやうな町にして居るやうな町といふ
 言林鳥宿 〇〇 〇〇

苦竹鳥

子午社

上知を以て下を治す。下を以て上を知る。此の理を以て治す。此の理を以て治す。

仙洞看對面首 九月九日

春二十首

五春曉

萬物皆有情 春風吹綠柳 燕子剪輕盈 桃花紅似火

楊花

五湖春色好 楊花飛滿天 輕盈如柳絮 飄落似飛煙

春雷

春雷聲震耳 萬物競生機 大地生機發 萬物競生機

驚春友

友朋相聚好 春風吹綠柳 燕子剪輕盈 桃花紅似火

春來梅

春來梅蕊紅 萬物競生機 大地生機發 萬物競生機

臨柳

臨柳看春景 萬物競生機 大地生機發 萬物競生機

臨春景

臨春景好 萬物競生機 大地生機發 萬物競生機

春春雨

春春雨好 萬物競生機 大地生機發 萬物競生機

柳月

柳月好 萬物競生機 大地生機發 萬物競生機

春晴月

春晴月好 萬物競生機 大地生機發 萬物競生機

待花

待花好 萬物競生機 大地生機發 萬物競生機

杜花

[illegible]

敬
卿
苑

任其自便

花白

はるかに津波が押し寄せて来る

犯色

[illegible]

田中義一

田舎者
わつても床の宇をたふさうと 秋の田舎をまじりて

夕城

乃親とあはれとを言ふのひそめ
 種々

折檻

嗟世之人好過此者多矣其類之犯

出麻

思痛
とく我れ指さして青夜を名乗るありけり

養老水

疊音水 タタタリ
 たらり 何ぞのふりこたへてを勢ふく處うおへ

夏十五首

朝更

新要
事
時
世
の
事
を
し
る
に
由
り

新樹

新撰 紅毛のついでに 西郷 武

待教

行狀と
 ものさす福もあつたおんかうへはあつた

周執中

何れに
 行ふに

佈

位よりのおつちをわきし月のてしにひかりをい

や苗

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

昌蒲

さきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

閑庭槐

今きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

五月の

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

夏まほ

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ぬき大

ひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

海草

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

夏月

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

山と立

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

六月後

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

秋二十有

初秋雲

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

七月三

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

に歌

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

時萩

きよきよのやうな清の海にいつまでもつた水にうそ

南意風

南意風は南風のこと

輝風うき風をうきなるるあけの菊はこころをま

難佳

百様のふくみ葉の海にうそこころをま菊の花

困虫

かくまうもあつたあつたあつたあつたあつたあ

達福庵

てはるあつたあつたあつたあつたあつたあ

若鹿

うそれのあつたあつたあつたあつたあつたあ

穂田露

輝風うき風をうきなるるあけの菊はこころをま

野暗

をばさうて暗もしやうとまうとまうとまうとま

竹露

よまをいれどかつたあつたあつたあつたあ

月出山

あつたあつたあつたあつたあつたあ

龍月

あつたあつたあつたあつたあつたあ

禁中月

あつたあつたあつたあつたあつたあ

泊月

あつたあつたあつたあつたあつたあ

惜月

入るをきり 鈴の音のわたり月と雲はせいでん
歩夜

歩のめりうらたしめ麻衣抱てなまもよやうく
岸おき

うらたしめうらたしめ岸はうらたしめ
雲秋お

うらたしめうらたしめ岸はうらたしめ
お十五首

初冬風
うらたしめうらたしめ岸はうらたしめ

特雨
うらたしめうらたしめ岸はうらたしめ

義里とわたりてふたふたうらたしめ
茶葉深

おつりてふたふたうらたしめ
池裏も

おつりてふたふたうらたしめ
湖氷

おつりてふたふたうらたしめ
瀧も

おつりてふたふたうらたしめ
水鳥も

おつりてふたふたうらたしめ
細代も

おつりてふたふたうらたしめ
お月

おつりてふたふたうらたしめ
お花の

全上卷

[illegible]

補

かゝる如き事々言ふは、世のふいふとて

鳴雪

時うにむすねはとちうつちう津の浦

竹書

くはやくとて、さういふおもしろいものか

而燒火

わがうをのむねをのむねにむすべし

山椒子

新事あらむ陽春抄といふあやうきもの

卷十五

春風

色空の我をなれとていふことなりあやふし
我の我をのりておぼえむとて我をのりて我を
かたむけしとていふことなりあやふし

夏志

おろけうらん せんもん ちんぐらう かいふく さいしん じりく せ
あふく ちんぐらう せんもん ちんぐらう かいふく さいしん じりく せ

秋毛

[illegible]

卷五

おきくはてしなくあつた。

あゝのうらなひつらつらとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

あゝのうらなひつらつとてあつたやうなうらなひつらつとて

リ権

左所行

離十五首

とゆふにやうのわさびをいれ、入念に煮
死骸

夜樣

月、師の言を聞き、其の如く修す。

秋風

君の愛をいかに尽すも花の如くちぎるに米

獨迷障

中世より新しきものありけり

懷日侯

[illegible]

神祇

君と臣の間にありては、
君と臣の間にありては、

乃於

一、（一） 日平の道、素人打をうか

寄國魂

江戸の成金よりうき世のあはれいをもて

分枝

石中悅通藏自奉光緒三冊自庚寅年拜至
甲子二年拜至全條通藏自庚寅年三月十一日拜至二十

日去明歷年八年比得之批萬宋中各五
可珍

四卷通藏自一



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

A 30
6390

Handwritten text on a rectangular label, possibly a library or archival tag, with some characters visible but mostly illegible due to fading and damage.

貞享四年

癸亥

正月十七日午後三時安永町に火災を被止

出は
西宮に火災
二時頃

二月三日 火災後より

火災後よりと云ふは月報の通りと云ふは

火災後よりと云ふは月報の通りと云ふは

火災後よりと云ふは月報の通りと云ふは

火災後よりと云ふは月報の通りと云ふは

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

残花行在

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

残花行在

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

水鳥馴舟

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

翠松遠家

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

雲楊子伝

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

雲楊梅開

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

同 勅作記

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

中山道新 勅作記

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

いふにみづのうへに 雲がたふさぐとく ひとしづかに せしめ

いりし時を思ふに村井のやまはまねとて
なるぬきしうねれ下もふまねなりといはれ
ふまねをいふはな

新水宮

いほ山根の草やうらうらと花とさうし
とあまのつらさうつもまねとさうしうら

新水宮

国とゆきまのりつら花ゆきしといはれ
花うらうらつらふまねの草のまねふまねいふは花ゆきし

新水宮

花うらうらつら花ゆきしといはれ
花うらうらつら花ゆきしといはれ

湖上石

いほ山根の草やうらうらと花とさうし
とあまのつらさうつもまねとさうしうら

月夜虫

いほ山根の草やうらうらと花とさうし
とあまのつらさうつもまねとさうしうら

月夜虫

いほ山根の草やうらうらと花とさうし
とあまのつらさうつもまねとさうしうら

秋歌集

大正十一年

十月五日

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま
秋歌集

秋歌集

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

秋歌集

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

秋歌集

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

秋歌集

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

秋歌集

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

秋歌集

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

秋歌集

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

秋歌集

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

うらやまの心はなほおもひおもひと花のうらやま

[illegible]

2番阿波木

後
に
さ
る

いかにある花にあらぬ水に土のまじりてうきよのまじり
水に土のまじりてうきよのまじりてうきよのまじり

山家夜吃

[illegible]

夢中語

けいさくしやうこく 移の戸とあふりくはのあ
 りまふさうしやうこく 移の戸とあふりくはのあ

竹書

117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536
 537
 538
 539
 540
 541
 542
 543
 544
 545
 546
 547
 548
 549
 550
 551
 552
 553
 554
 555
 556
 557
 558
 559
 560
 561
 562
 563
 564
 565
 566
 567
 568
 569
 570
 571
 572
 573
 574
 575
 576
 577
 578
 579
 580
 581
 582
 583
 584
 585
 586
 587
 588
 589
 590
 591
 592
 593
 594
 595
 596
 597
 598
 599
 600
 601
 602
 603
 604
 605
 606
 607
 608
 609
 610
 611
 612
 613
 614
 615
 616
 617
 618
 619
 620
 621
 622
 623
 624
 625
 626
 627
 628

夏娃中二卷通

あまを二のり二平はなまのちのちとふ

且得宜處亦因循至今不為檢乎之

五

今更に其の事を知りて、
其の事を知りて、

新梅

出所乃係其子之里人

山苑

接収の記録を保存する

早苗

不_レハ

卷之四

卷之三

いふことゝいふことゝいふことゝいふことゝいふことゝいふことゝ

丙午

連日暑熱臘月天

臥床不厭一爐遙

吾知幽巷無人到

獨向面窗弄簡篇

曲買孺君不利名

友朋親戚隔千程

偶然暇得挑源水

洗却世間旧染指

歲暮書懷

臘盡羅根雪作堆

橫斜冰葉傍簷開

一年光景一宵夢

老屋殘生又幾回

詩題

江漢水院才七回進律和

うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ

貞享五年戊辰 元禄元

癸卯

試筆

御多事なりて御多事の間ニ御多事なりて御多事なり
鶴報正更改曆天九衢多聘賀新年 飛居却迎照々
右曲弦中聖像示

正月吉日ねむるまゝのむすむすのつとめとてまゐり

ふつとふつとふつとふつとふつとふつとふつとふつと

御筆

つとめとてまゐりて御多事なりて御多事なり

あまき

水

御多事なりて御多事の間ニ御多事なりて御多事なり
水のたれとてふつとふつとふつとふつとふつと

御筆

二月ナニ 御多事

御多事なりて御多事の間ニ御多事なりて御多事なり

うしげんさけいしき
（紙所）
増すりあふしきふかき

物志

あふれりるはさきつかにさきさきあふれ
りるのさきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさき

社頭祝

引のあふれりるさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさきさき

春月 二月廿七

まき中天月史園 横斜花紋傍欄干 窓前春色猶堪賞
庭後疏山清夜看

水戸おんより曙の鳥形さきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさきさき

さきさきさき

さきさきさきさきさきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさきさき

右二冊者座前推達 （おさき） 依り坐る座前推達 （おさき） 依り坐る座前推達

海客 座前推達と依り坐る座前推達

要機部本は

朔露結末 八月三日 座前推達と依り坐る座前推達

引のあふれりるさきさきさきさきさき

春月 二月廿七

引のあふれりるさきさきさきさきさき

陸夜月

月を眺めつゝ思ふに 影をうつし月をうつし思ふに 影をうつし

山家直書

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

山家直書の影をうつし 影をうつし 影をうつし 影をうつし

てやうにわがわがにまうまうとまのしほのしほをわがわが
このくちあつてとまうまうとまのしほのしほをわがわが

関中屋

わがわがにまうまうとまのしほのしほをわがわが

中井

わがわがにまうまうとまのしほのしほをわがわが

わがわがにまうまうとまのしほのしほをわがわが

まのしほ

わがわがにまうまうとまのしほのしほをわがわが

元禄二年乙

五十九

武家

まのしほにまうまうとまのしほのしほをわがわが

春水消

二月十二日卯時

石清水にまうまうとまのしほのしほをわがわが

田舎

まのしほにまうまうとまのしほのしほをわがわが

潮死入屋

まのしほにまうまうとまのしほのしほをわがわが

春水消

まのしほにまうまうとまのしほのしほをわがわが

春水消

まのしほにまうまうとまのしほのしほをわがわが

演説と評して、
 神の心を
 三月七日家相有張戸下持也所

[illegible]

事相中ねなまつ者 非是心 妹とひつゝをえき ひきおち けし
初とあつて う

ありては、いふまでもなく、主として、その

百篇 卷之

都立春
三月三日

是のより事やうに思ふは、
建永元年

[Handwritten signature]

重陽行舟

新事、まゝ、あつたやうに書かす。おれも、

舊榮亭

恒るは我が身を以て天下の爲に爲すなり

求者榮

ਅੰਤਰਿਕਸ਼ਿਕਾ

挂根續雪

ふたつにわかれ、いづれは海へ、いづれは山へ、

梅花夜意

知れぬ事多し

新後水

しんせきやうを申しあげ、あらう、きんぎょくも

柳年燕

春風吹く柳の葉はあけぬき

春月曜

いづれあけぬきつゝみづかきぬきあけぬき

朝春雨

朝の雨みづかきぬきあけぬき

春晴花

うぐいす花のあけぬきあけぬき

暮天如鷹

つるつるの雲をわきまきぬき

漸待花

花をよそよそと吹せぬき

花未飽

花をよそよそと吹せぬき

花如舊

花をよそよそと吹せぬき

花不待時

花をよそよそと吹せぬき

花も如庭

花をよそよそと吹せぬき

折花を

花をよそよそと吹せぬき

暮春花

花をよそよそと吹せぬき

夏十五首

更夜惜春

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

離五月初

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

柳色青青江水平，
送君千里上春台。

樹陰峰

峰らきふもやきて峰へ入るきすき松の下を

納涼風

いはゆるに峰をあらうりあはれ^{いさ}風とあるはとて峰

杜若宿

みまうしあはれきすきき風の峰へいさうしあはれ

秋二十首

山早秋

いさきき風をいさうきききき山初秋きききと初の朝也

七リ舟

舟上初秋きききききききききききききききききき

夜深風秋

夜ききききききききききききききききききききききき

夜深風秋

ききききききききききききききききききききききき

行踏薄

ききききききききききききききききききききききき

虫聲非一

ききききききききききききききききききききききき

華道廬

ききききききききききききききききききききききき

田家麻

ききききききききききききききききききききききき

秋夕僧談

ききききききききききききききききききききききき

秋水待月

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

松月幽

まのひかりの影もいづれはさきさきの後のとちと月

月夜歌

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

見月夢友

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

曉月厭雲

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

枕二歌

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

古波宿深

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

猿芝居

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

紅葉浅

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

紅葉如錦

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

普秋霜

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

わすれ

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

福芝居

おのねの影もいづれはさきさきの後のとちと月

漢舟建波

浦人のつらさしおもひては波のつらさし真の物事

山家詩

つらさしおもひ公のつらさしおもひのつらさし

山家送年

入つたわがわがのつらさしおもひのつらさし

舞中歌

きつたつらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

振宿雨

つらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

述懐詩人

つらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

思はる

つらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

年神歌祝

つらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

つらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

つらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

つらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

つらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

つらさしおもひのつらさしおもひのつらさし

秋夕 八月三日 初夜

いづれに秋の夜もいづれに秋の夜もいづれに秋の夜もいづれに秋の夜も

亭夜

いづれに秋の夜もいづれに秋の夜もいづれに秋の夜もいづれに秋の夜も

秋暮

栄戸の末元客過 主客律迫慨嘆夕 病角一夢三年數
浮沈死生人奈何

雷朝和泉初韵

年來追思感唐風 佳什沈吟詩意濃 茅屋坐臥今且雪
仙宮換得一篇中

燈下見書

寒齋忘下一燈聚 霜華滿篇思舊情 卷舒不厭無盡味

霜鐘半夜月三更

元祿三年

庚午

竹書六子

元且偶成

三子弟兄相共親
膝下惠恩滿六旬

方長傳盞賀陽春
更歡慈母大年留

閑庭梅

簷外梅花一樹春

竹間幽徑暮寒侵

寂寥勿忘金衣子

幸有龍吟慰主人

幽徑苔遍人不知

梅兄一樹倚荒巖

獨向金臺歌舞興

庭除空董明月枝

山房春事

韶光万里薄烟同
一聲黃鳥暮林中

山后春聲世更添

巖下梅花溪水曲

春江漢文

遠岸晚霞樹色幽 羅義輕萌又何求 春江百里此吾宅
任意往來一釣舟

湖春晴

二月五日卯時

別館在あつぽうのまじり入月乃あやめ雲の霞のあやめ
ふたふたあやめあやめの霞のあやめあやめあやめあやめ

半神祝

あやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめ

あやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめあやめ

原上鹿

あらうむのやあらうむのやあらうむのやあらうむのや
春鹿花

花はさきこころと秋の月をわかれわかれの月
湖郭云

花はさきこころと秋の月をわかれわかれの月
秋花友

花はさきこころと秋の月をわかれわかれの月
岡山月

花はさきこころと秋の月をわかれわかれの月
その他

花はさきこころと秋の月をわかれわかれの月

年山云

おもしろい山をのぼるのやあらうむのやあらうむのや
年山云

おもしろい山をのぼるのやあらうむのやあらうむのや
山家煙

おもしろい山をのぼるのやあらうむのやあらうむのや
古寺松

おもしろい山をのぼるのやあらうむのやあらうむのや
十首

遠山鹿

おもしろい山をのぼるのやあらうむのやあらうむのや
遠山鹿

[illegible]

品餘苑

花もよくあり松の常々——と山を今うかへん

海遙月

よめむとすもすも花の明るはしりる月夜

葛楚松

おれはこゝに於ては、^{まはるをかりし}なりきりし書のおもひえ
いづれよりおれをのこし、^{まはるをかりし}なりきりし書のおもひえ

七十五里至東之橋，官電胡

關銘

美しきものなり

待堂長

もろくろとてきくくもろくろとてきくく

恒純忘

1. Wiederholung des Textes

卷之五

何を必しとてぞあはれきぬかたのうらみぞおもひ

述懷

まゝをわづらひてゐる方のふいふおれよりおもしろい人

子在門上

かゝることをなすからいふと、おれは、

牡丹は草花牡丹 高七 花あやうき

[illegible][illegible]

中元事相と申す御事、但しそれと申すは、御事と申すは、
御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、

元禄四年

未年

六十六

試毫

雷はせしるゆかりのやうに、あつたりのきき、あつたりのきき、

野猿宮

正月廿三日 事相と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、

御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、

春曉月

前月の月と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、

御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、

録書風

二月朔日 事相と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、

御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、御事と申すは、

に備ふもそぞろに國氏しむいさなをなうくうやう

暮春種 十日あふ

引く此の種しむいさなやうに種をいさなし暮春の時
あふくやあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

野種 二月十日あふ

月もあふくす中^{れいふ}に種をいさなやうに種をいさなとあふく
種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

行種 十日あふ

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく
山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山家月

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

山吹の種をいさなとあふくすといふ山麓の種をいさなとあふく

曉述懷

あけくらのひの朝はなほ花ふりつたまゝにうつくしむねをさかきわ
らうとてをばなすゝとあけん午のたのめするもな
は水鳥 十一〇 ちやうや

あけくらのひの月もさかきふにうつくしむねをさかきわ
らうとてをばなすゝとあけん午のたのめするもな
は水鳥 十一〇 ちやうや

春香

十一〇 ちやうや

あけくらのひの朝はなほ花ふりつたまゝにうつくしむねをさかきわ
らうとてをばなすゝとあけん午のたのめするもな
は水鳥 十一〇 ちやうや

余

四月一日 ちやうや

あけくらのひの朝はなほ花ふりつたまゝにうつくしむねをさかきわ
らうとてをばなすゝとあけん午のたのめするもな
は水鳥 十一〇 ちやうや

春香

あけくらのひの朝はなほ花ふりつたまゝにうつくしむねをさかきわ
らうとてをばなすゝとあけん午のたのめするもな
は水鳥 十一〇 ちやうや

春香

十一〇 ちやうや

あけくらのひの朝はなほ花ふりつたまゝにうつくしむねをさかきわ
らうとてをばなすゝとあけん午のたのめするもな
は水鳥 十一〇 ちやうや

あけくらのひの朝はなほ花ふりつたまゝにうつくしむねをさかきわ
らうとてをばなすゝとあけん午のたのめするもな
は水鳥 十一〇 ちやうや

春香

十一〇 ちやうや

あけくらのひの朝はなほ花ふりつたまゝにうつくしむねをさかきわ
らうとてをばなすゝとあけん午のたのめするもな
は水鳥 十一〇 ちやうや

春香

とも又つたふりめもさうさうあるさうな
 ともうめさうなうしろのふりめさうな

[illegible]

海客談瀛海
 瀛海之東
 瀛海之東

年壯心
才
日

新編 日本書紀

[illegible]

夏元 日吉 亥子

—பெரிய கிணறு—

川とてふを、いへるに、みちのくは、みちのくにあり

別志

ちやうど一軒のまゝさういふわきから影が
 ながれてゐた。

野分 子

[illegible]

枯田 千石

Handwritten signature: *Wm. H. R. R.*

月夜振泊

別れ里のまじりのいふ夜の月夜振泊のまじり

秋色

八月十五日 月夜

ふるさとのまじりのいふ夜の月夜振泊のまじり

秋聲

別れ里のまじりのいふ夜の月夜振泊のまじり

酒井田記三有信より別れ里のまじり

秋香

ふるさとのまじりのいふ夜の月夜振泊のまじり

酒井田記三有信より別れ里のまじり

右二用お人別れ里のまじり

特選源流

ふるさとのまじりのいふ夜の月夜振泊のまじり

水一用散針師士成祥 傷あやめぬ馬調 中へ 別れ里のまじり

注鑑考へ

永福四年十月上院

特選源流

思秋葉 九月月以

水一用散針師士成祥 傷あやめぬ馬調 中へ 別れ里のまじり

ふるさとのまじり

春卜降 五月十二日

申つたのうらゝいさやうな所へてゐるからそ
うなうらゝいさやうな所へてゐるからそ
うなうらゝいさやうな所へてゐるからそ

肯と蘇翁相對飲陳雜呼取盡餘杯 世清書

年本雜

はりやうもあひやうなりやうな所へてゐるからそ
うなうらゝいさやうな所へてゐるからそ

植樹郭素晚博くふゆく

稀二五 中元とちちちちちちち

うらゝいさやうな所へてゐるからそ
うなうらゝいさやうな所へてゐるからそ

うらゝいさやうな所へてゐるからそ
うなうらゝいさやうな所へてゐるからそ
うなうらゝいさやうな所へてゐるからそ

伊勢一祿を伝ふるに
年和二位を伝ふるに

うらゝいさやうな所へてゐるからそ
うなうらゝいさやうな所へてゐるからそ
うなうらゝいさやうな所へてゐるからそ

元禄五年^中

お十次

試筆

そらとりてある年ふりまけに城のわとていひよる

むす信州四國探別うてお五年とていひよる

まじりあふのふりまけの國のわとていひよる

也

うまうまのうて改まけうあふのわとていひよる

わう人牡丹の信探別とていひよる

わう人牡丹の信探別とていひよる

わう人牡丹の信探別とていひよる

わう人牡丹の信探別とていひよる

二月

わう人牡丹の信探別とていひよる

わう人牡丹の信探別とていひよる

わう人牡丹の信探別とていひよる

わう人牡丹の信探別とていひよる

花随風

事あるあり

花とけし風よりくもりて蜂のつてをあたふと
あつたもるをふくとはいふわつたあつたわつた

雪消氷又釋

二月五日 卯辰

雪よりふとしりふふもるもるふふふ世後の行ふ
福ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

養花蝶を去

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

楊談古人書

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

初秋朝

八月二日 卯辰

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

杜若葉

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

寄錦衣

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

四年秋 晴 晴 晴 晴

別入 ざうこちのあやういふものやう

山月宿 八月八日 卯時

いほ山月宿をうつて 峰のふちの月いづれなるか
やうなる 山月いづれなるか 峰のふちなるか
十五首 十月八日 卯時

山月

山月いづれなるか 山月いづれなるか 山月いづれなるか
山月

山月いづれなるか 山月いづれなるか 山月いづれなるか
山月

山月いづれなるか 山月いづれなるか 山月いづれなるか
山月

山月

山月いづれなるか 山月いづれなるか 山月いづれなるか
山月

山月

山月いづれなるか 山月いづれなるか 山月いづれなるか
山月

山月

山月いづれなるか 山月いづれなるか 山月いづれなるか
山月

とも世のおしわけな木橋よりそりあがりてまてゝ
ち奇産

古奇鐘

祿の書と彼乃て里をくへ曉る地三井のふき

山家

まゝに書かして置くから、

後宿風

相傳
又稱之爲のろろを吹く也

祝玄

福至
 福至

又非尋常不終壽印

早春日麗

三浦あふきけもてみ

保春草

[illegible]

常々の事あるものなり

あふしつらういふさうく・ほくのちかめをひきまう

曉梅

和歌集の巻名

死滿山

李國公

[illegible][illegible]

望昔云

まゝの紙をひき下して書物に立てる

漢印記

ひきつりて、
ひきつりて、

only to

野村云

可也

卯のさしほのけしきなりけり昔も相かへりた人の家なり
雨後橋川

月夜歌

月よりあつたふしなれ花の影にのびるいづれもあつた
いづれもあつたふしなれ花の影にのびるいづれもあつた

夕虫

夕虫は夕の光のなかをひらひらと飛びまわつてゐる
夕の光のなかをひらひらと飛びまわつてゐる

海邊席

いそがしき海邊席にゐる人々の声は
いそがしき海邊席にゐる人々の声は

岡庭落

岡庭落のうしろの山は
岡庭落のうしろの山は

右所橋板

右所橋板のうしろの山は
右所橋板のうしろの山は

初寒きき

初寒ききのうしろの山は
初寒ききのうしろの山は

池光寺

池光寺のうしろの山は
池光寺のうしろの山は

坂の音

坂の音のうしろの山は
坂の音のうしろの山は

お世のやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

因聲に云

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

因上義

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

因上義

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

自貞享四年正月五日被上は、後居十二月十日被上

元禄七年

戊申

おのち

武平

おのち

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

武平

おのち

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

武平

おのち

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

武平

おのち

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

おのちのやまにあらはれしは、おのち人にもあらはれしを

摘萱 三月七日 仙岡佳吉啓

ふねねもろくもきき生れあはれいひさすにたつあつて
内へおひき里よりあつむいされおちあはれいひさす

五去来 三月三日 仙岡佳吉啓

あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて
あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて

卯花 三月六日 仙岡佳吉啓

あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて
あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて

頃誓言 三月六日 仙岡佳吉啓

あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて
あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて

閑見月 二月 仙岡佳吉啓

あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて
あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて

事際

あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて
あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて

康福堂 三月六日 仙岡佳吉啓

あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて
あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて

五月 仙岡佳吉啓

あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて
あつてふりうあめききけいさつあつてふりうあつて

山家書

あまのやみあむをねのしるもさうらうらうとて
さふ人の名のみあうてはるるもさうらうらうとて

悟絶

五月廿日 仙洞四ノ番

一歩のうしろにみえはるるもさうらうらうとて
ふくさうみえはるるもさうらうらうとて

ねんを年ひかりなりぬるはのうらうらうとて
ふくさうみえはるるもさうらうらうとて

さうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて
さうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて

さうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて
さうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて

さうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて
さうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて

夏社

仙洞 仙洞五ノ番
五月十二日

みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて
みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて

みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて
みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて

みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて
みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて

野外展

仙洞 仙洞五ノ番
五月十四日

みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて
みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて

死理

仙洞 仙洞五ノ番
五月十五日

みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて
みえのうらうらうとてさうらうらうとてさうらうらうとて

年世祝

此をすねぢとてんきとをふの國をさかあつて
 ともともともわきのふつ國をさかあつて

寝寬曙

六月七日 仙洞 佳音 四清

福を享くも我乃爲と云ふことありしかば、
これに非ざるべし。我乃爲の字をわが爲と

恒夕類

十月四日

美しきものなりてはなほおもひてはるかにあを
 人となつてはなほおもひてはるかにあを

細涼

一葉をばさふといふ凡の文を寫さるるの樹の下を
 坐すは故実なりといふ也とてふ言をてつて五紙録する

年馬玄

[illegible]

春朝庭

五、市街を走る

去はけいそのと底の一面ふつとせうとていふひやえ
きもあむしう胡堂あつとふつひやうとていふせう

強胡志

田重嗣彦

[illegible]

Pharmaceuticals

有編百

別をふとそと新まのゆきまふ月につま
 ちへくつや言ふ病のこころふたふたを

福春日風

七月二日
松岡子元書

此乃多良海之味也

板より柳のしきりいつつもあはれむるも君のしる

牛女説書

ナメ

銅甲あふ隙にけしきもあはれむるも君のしる

事松云

ナメ 信岡中へはな

あふれむるもあはれむるも君のしる

月

八月八日 信岡中へはな

あふれむるもあはれむるも君のしる

事月述懐

ナメ 信岡中へはな

あふれむるもあはれむるも君のしる

御書雁行 九月二日 信岡中へはな

あふれむるもあはれむるも君のしる

あふれむるもあはれむるも君のしる

あふれむるもあはれむるも君のしる

信岡中へはな

あふれむるもあはれむるも君のしる

三月盡

十二日 信岡中へはな

あふれむるもあはれむるも君のしる

水花

十四日 由月

あふれむるもあはれむるも君のしる

岸にゆくやうなうらな　　こころのなみだの氷のふり

晝迄

朝とすなわち夕とすなわち　　いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも

松庭駢友

十九日　　南無　　大徳　　大徳

いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも

如是歌頭

主徳　　大徳　　大徳　　大徳

いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも

幸路本末

十月廿六日　　月夜

いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも

漢舟連浪

いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも

要言

十月廿六日　　南無　　大徳　　大徳

いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも

強り強み

いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも

朝日

十月廿六日　　南無　　大徳　　大徳

いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも

いづれも

いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも
いづれもいづれもいづれもいづれも　　いづれもいづれもいづれもいづれも

松有秋聲

二月十三日とて夜夜を閑東樓事

仙岡作

ものなりとゆきとくも色あはれおき松とあはれもを
あけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

中書院蔵

五月五日の祈禱

五月五日の祈禱

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

野外草花

二月十三日水庵より
おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

社類祝

十五日 春廟に参る

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

社類祝

十五日 春廟に参る

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

社類祝

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

社類祝

十五日 春廟に参る

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

社類祝

十五日 春廟に参る

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

おきとけりてあはれおきとけりてあはれおきとけりてあはれおき

社類祝

十五日 春廟に参る

病不離身

患不離身

おれはもうあつたのだからさういふ必要もなかつたから
いふまでもないが、ちやうどかゝるものがある。

尚書

六月廿日 田原

岩ありきやまといひて音と知しる處もあつたの伝
けのたらしきなまゝにありてあゝけきひきん

寢元虫

友より來床より養育されしゆゑ愛しけりけり
をりてゆゑの虫いふ花の病をりては病えなむ

帝天玄

廿五日 丙午 廟祀

今更好物なりと云ふ

冰

[illegible]

虎

4

位調候吉而法衆

おなまふかきつふあひすくじつに席をとりわかれ
ゐるわねと(ま)うきもたれしりやういふあはれな

步管絃

七ノ五

今日寸心兩代如 前作畢

[illegible]

元日宴

七日 怪古秋山清

九月宴
外方去者もつとておる中つとておる

名

八月二日 家語示、初卯

月示草 へまといふをわするあはれ

あつた花をよみて あつた花をよみて 雲のふちよりあつた月の光
男山もあつたをよみてあつた月の光をよみてあつた

夕千鳥 八日 仙洞の山

月波のあつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた
月波のあつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた

浪若隠長 十日 佐倉松の山

今よりあつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた
今よりあつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた

社頭棟 九月八日 佐倉松の山

黄菊流暢 九日 佐倉松の山

引きよめあつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた
引きよめあつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた

鷹持剛虎電 十月二日 佐倉松の山

あつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた
あつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた

秋歌 九月十四日 仙洞の山

あつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた
あつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた

中秋月をよみて

あつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた
あつた花をよみてあつた月の光をよみてあつた

元禄九年

二月廿八日

試筆

いふにれいこちあきしきふりしものいふは人の眼
こしらへぬあなるきふりしものいふは人の心

春花育物

二月九日 松岡若菜

判りいふまじうと國のうらに物をとてはわたりて

ふけうしれいものきふりしものいふは人の心

春雨

四月十日 松岡住吉の信

いふにれいこちあきしきふりしものいふは人の眼

あきふれいこちあきしきふりしものいふは人の心

春信濃守 松岡 四巻 信持 ちきりしものいふは

續女假借 七ツ 乙亥

あつた水乃わく水にさううへへ油ふき入つて置て
こゝろつて日曜と云う一歳めお神はいふのあつたうへへ

萩梅

五月十七日 仙洞の松

いそぐ乃さてもかゝるうへへうへへうへへうへへ
うへへうへへうへへうへへうへへうへへうへへ
まらうへへうへへうへへうへへうへへうへへ

蓮花

日サ日 由 日 日

まほつのもうへへうへへうへへうへへうへへ
たのむもうへへうへへうへへうへへうへへ

胡草花

日サ日 乙亥 月 日

うへへうへへうへへうへへうへへうへへ
うへへうへへうへへうへへうへへうへへ

花 洋 因 鹿

うへへうへへうへへうへへうへへうへへ
うへへうへへうへへうへへうへへうへへ

事 止 乙 亥

うへへうへへうへへうへへうへへうへへ
うへへうへへうへへうへへうへへうへへ

蓮花

日サ日 乙亥 月 日

うへへうへへうへへうへへうへへうへへ
うへへうへへうへへうへへうへへうへへ

蓮花

日サ日 乙亥 月 日

うへへうへへうへへうへへうへへうへへ
うへへうへへうへへうへへうへへうへへ

いじの松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

あふとふ松をいつゝ松をうけいしつゝいふとあるいふといふ日か陽つ

秋枕

八月七日 卯卯 家法

十月五日 仙洞 霜降 霜降

十月五日 仙洞 霜降 霜降

十月五日 仙洞 霜降 霜降

十月五日 仙洞 霜降 霜降

十月五日 仙洞 霜降 霜降

十月五日 仙洞 霜降 霜降

十月五日 仙洞 霜降 霜降

十月五日 仙洞 霜降 霜降

十月五日 仙洞 霜降 霜降

十月五日 仙洞 霜降 霜降

世にありし君の心通る人ありてあはれきまはれまはれ

先天（石蓮）

花鳥の心をたゞやいつくも春風こめたる春風なり

石蓮（石蓮）

花鳥

廿九日 田舎

あはれくちをふらふのさつとつと秋の風をねの吹のち
らゝ人なりそそむぬ吹のつとねさうとさうなる

海邊月

二月四日 仙洞 春日 秋風 西産

輝るる波よりそとる物なり月の光なりそとる

とむる物なりそとる物なり月の光なりそとる

霞中鳥

廿日 仙洞 月 秋風 廿日 月 秋風

そとる物なりそとる物なり月の光なりそとる

送書

そとる物なりそとる物なり月の光なりそとる

物書

廿日 月 秋風

そとる物なりそとる物なり月の光なりそとる

早春山

廿日 月 秋風

そとる物なりそとる物なり月の光なりそとる

花随風

廿日 月 秋風

そとる物なりそとる物なり月の光なりそとる

秋花露堂

廿日 月 秋風

そとる物なりそとる物なり月の光なりそとる

[illegible]

懷素

廿二日水漲至山溪東

八月二十日
 草薺青

車漸

吉日 戊戌年

[illegible]

漢胡志

せしむるをあらはに道達の病つらふにあともあわ
 り^{も病おこす}
 かきとちるふやまづりつらう^{え病おこす}最ふ得床もちつら

李商隐 卷之四 旧唐书

22-14

[illegible]

廿日 齊入田五畝 進步心氣人

とよしるをわさるゝもあといふに帰るるはの用を

閨婦

十一日 内務省所屬

[illegible]

負志

二月十五日 仁岡石清水山集

中がよいとやあふのうらなむかひのうらなむかひ
 あふとやあふのうらなむかひのうらなむかひ
 あふとやあふのうらなむかひのうらなむかひ

河春月

信
月
以
卷

玉露やあつちのうたはれしあつちのうたはれし
こぼれしこぼれしこぼれしこぼれし

鐘聲何方

ちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
あつちのうたはれしあつちのうたはれし

花散 日。あえき

うやうやうやうやうやうやうやうやうやうや
あつちのうたはれしあつちのうたはれし

月夜花 三月四日 日。あえき

うやうやうやうやうやうやうやうやうやうや
あつちのうたはれしあつちのうたはれし

仙田新井 十一日 仙田 仙田新井

うやうやうやうやうやうやうやうやうやうや
あつちのうたはれしあつちのうたはれし

春のうた 日。あえき

うやうやうやうやうやうやうやうやうやうや
あつちのうたはれしあつちのうたはれし

春のうた 日。あえき

うやうやうやうやうやうやうやうやうやうや
あつちのうたはれしあつちのうたはれし

春のうた 日。あえき

うやうやうやうやうやうやうやうやうやうや
あつちのうたはれしあつちのうたはれし

春名

神のまゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ
こし神のまゝいしむるもめは神のまゝ

春神祝

四月五日 仙洞 春神祝

まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ
まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ

春神祝

四月五日 仙洞 春神祝

まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ
まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ

新樹好月

まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ
まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ

新樹好月

秋神祝

四月五日 仙洞 秋神祝

まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ
まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ

海路達

四月五日 仙洞 海路達

まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ
まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ

垣ノ顔

四月五日 仙洞 垣ノ顔

まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ
まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ

春神祝

四月五日 仙洞 春神祝

まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ
まゝなる海に物いしむるもめは神のまゝ

おりのきとやうにとりてつて入らねとあそびとて
きとやうとは

おのきとやうにとりてつて入らねとあそびとて
きとやうとは

雲似る

病ては月のかげにまよふ花の影をみれば
いづれか

玉まゝあそびとて入らねとあそびとて
いづれか

宿樹市處

山のとけちとみちのうと花のうとまゝあそびとて
いづれか

いづれか
いづれか

秋香玉真

中院源五

野詩式絶

千里秋林春 遠懷花灼々 鴛枕新助芳 餘年伴龜鶴

元梅丁七香

和韵 辛卯丁七香 源重種

夏秋

みちまゝあそびとて入らねとあそびとて
いづれか

月をみれば
いづれか

閑山月書

月をみれば
いづれか

馬上書

月をみれば
いづれか

月をみれば
いづれか

野橋歌 寄名無調式

なまもふのうとをあらわぬかあまこころつたうなまら

龍崎行舟士日 仙洞富屋名

引の舟をいそぐとみえ舟のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

十五首

十五夜月 十五夜月

こころ月入るるも夜宿るる月をみえつたうなまら

生もいそぐとみえ舟のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

月前歌

お池のあやゆめとみえ舟のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

月前時雨

つたう月入るるも夜宿るる月をみえつたうなまら

月前歌

きりあや月入るるも夜宿るる月をみえつたうなまら

月前歌 月前歌 月前歌 月前歌 月前歌 月前歌 月前歌 月前歌

月前歌

りり月の影をみえつたうなまら

月前歌

お池のあやゆめとみえ舟のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

月前歌

お池のあやゆめとみえ舟のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

月前歌

お池のあやゆめとみえ舟のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

お池のあやゆめとみえ舟のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

月前麻

くく 雲月もあしや月まらふあふれくくくくくく

くく 梅夜

非あしあふれあうくくくくくくくくくく

辛月夜

海月本列の福あうくくくくくくくくくく

くく 述懐

秋をせしあうくくくくくくくくくく

くく 祝

い福山月のあふれくくくくくくくくくく

秋雲

十月廿五日 日あふれくく

吹つてあうくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

残雪

くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

月をくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

閑中春情

九月二日 仙岡あふれくく

刻もいふあふれくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく

外山月

くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく

形くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく

敬謝事

廿四日 月あふれくく

くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく

古寺歳暮

利づるのふかしのまはるる寺の人ときどきわらうやうに
くまのいづれかあつたあきしむ佛のひまをうけん

浦鶴啼月

陰るの地ねのつ月あまの月と懸るけりうの候

こゝろにふかしのまはるる寺の人ときどきわらうやうに

舟宿難

十月八日 仙洞石清水の宿

利づるのふかしのまはるる寺の人ときどきわらうやうに
くまのいづれかあつたあきしむ佛のひまをうけん

壬子歳十一月後柱成十二月興梁成り也

元禄十一年

秋藏

壬子歳十一月後柱成十二月興梁成り也
又壬子歳十一月後柱成十二月興梁成り也

納涼忌

仙洞石清水
正月十六日

利づるのふかしのまはるる寺の人ときどきわらうやうに
くまのいづれかあつたあきしむ佛のひまをうけん

岡崎社

二月十六日
仙洞石清水

利づるのふかしのまはるる寺の人ときどきわらうやうに
くまのいづれかあつたあきしむ佛のひまをうけん

厳島寺

三月十四日
仙洞石清水

利づるのふかしのまはるる寺の人ときどきわらうやうに
くまのいづれかあつたあきしむ佛のひまをうけん

秋

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

田舎

田舎の風はあけはるの風とちがふ。田舎の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。

秋の風はあけはるの風とちがふ。秋の風はあけはるの風とちがふ。

ちやうど一月もたつて晩つて後りて

卯花 九月十三日 雲天

水鳥 たち 雲天

落葉風 十月廿五日 社団法人

注釈

平草子 十一月二十日 社団法人

福寿朝

二月十五日 社団法人 社団法人

ちやうど一月もたつて晩つて後りて
卯花 九月十三日 雲天
水鳥 たち 雲天
落葉風 十月廿五日 社団法人
注釈
平草子 十一月二十日 社団法人
福寿朝 二月十五日 社団法人 社団法人

落葉風

福寿朝

十一月二十日 社団法人

ちやうど一月もたつて晩つて後りて

事記

胡弓の指のなかにさしてゐる……死のま
まに溺死

震滿死

うへへおもしろい事なうへへおもしろい
雨の中

西中記

名をいふてうへに(も)おほくもふくむるにちひはるふらふら

風雨苑

とちうにじつをいふと、こゝろの事より、

藝山堂

多岐の道に迷ひて

苗

ふきまゝの流るゝと花うらとて花さゆふ田なつり

齊歌

たゞのほろろもうき好まぬのふた

打鼓

[illegible]

三月盡

三月盡
月終より一ヶ月間

夏子云著

史記

生駒あむき乃水野勝也と云ふ人

川即起

あふるといふまゝのうしろのあやうくはな

初秋

[illegible]

新編

夢をみる

虛構

盧村 子と云ふ事なくとも其方陰心は乃て其方風

爆音片

萬葉集 卷之六 萬葉集

早苗

うつくしき緑のこころをうたふ田舎のうたをうたふ

五月雨

月ひいて星の光るよみちをうたふ雨のうたをうたふ

夏月

雲のうたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

あまのうたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

うたをうたふ花のうたをうたふ月夜のうたをうたふ

五三三

秋とて神のまゝいづれにまかせたはるかに

原虫

遠く東のまのりかたにまかせたはるかに

龍麻

つぎとつぎにまかせたはるかに

雲福馬

とつとつにまかせたはるかに

秋ヤ

あけとつにまかせたはるかに

駒込

あけとつにまかせたはるかに

南月

あけとつにまかせたはるかに

南月

あけとつにまかせたはるかに

杜月

あけとつにまかせたはるかに

砥月

あけとつにまかせたはるかに

活月

あけとつにまかせたはるかに

海霧

あけとつにまかせたはるかに

梅夜

あけとつにまかせたはるかに

山霧

あけとつにまかせたはるかに

をい渡るゝし秋のさへおとてお散りいふては秋の風は

言秋

今よりいふお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

冬十五首

時雨

ひさしおとてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

底葉深

と日といふお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

秋菊

うし秋のつめいふてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

寒葉多

清りつお散りいふておとてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

清水

まよわいといふお散りいふておとてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

冬月

あつと秋の女や月夜のやういふてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

紅葉

うし秋のつめいふてお散りいふておとてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

紅葉

うし秋のつめいふてお散りいふておとてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

池水鳥

あつと秋の女や月夜のやういふてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

池水鳥

あつと秋の女や月夜のやういふてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

池水鳥

あつと秋の女や月夜のやういふてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

池水鳥

あつと秋の女や月夜のやういふてお散りいふておとてお散りいふては秋の風は

池水鳥

をるとうちけこのふりつをうけ事なり

炭筆

惜哉

惜哉

甲子年九月廿五日

哀子首

初寒

[illegible]

思

後より神ありとあるは是れをいふべし

市道

[illegible]

新書

我々の神の御心は、
我々の神の御心は、

壽

神無月

閑意

月夜
 月夜あそびを
 月夜あそびを

旦

何事も是れを以てしむる所なりとて

卷之六

[illegible]

待急

مجلسه اول

進

今更に其の要領を以て示す

漢綱目

[illegible]

葬中歌

あや里子歌りわかれつゝと振れぬ心ぞいかに

振泊長

いふゆゑにわかれつゝと振れぬ心ぞいかに

思はず

歌なりわかれつゝと振れぬ心ぞいかに

述懐

何となくわかれつゝと振れぬ心ぞいかに

祝言

ううかふふのううかふふのううかふふのううかふふの

元禄十二年紀

六十九歳

哉

物事おかしきことぞいかに

おかしきことぞいかに
二月十二日 松岡春房

あや里子歌りわかれつゝと振れぬ心ぞいかに

あや里子歌りわかれつゝと振れぬ心ぞいかに

あや里子歌りわかれつゝと振れぬ心ぞいかに
廿一日 松岡春房

ううかふふのううかふふのううかふふのううかふふの

ううかふふのううかふふのううかふふのううかふふの

ううかふふのううかふふのううかふふのううかふふの

雪消山色補 二日 松岡春房

おちよめ 云々 上巻 云々 下巻 云々

遠慮 二月廿六日 仙岡おんる

おちよめ 云々 上巻 云々 下巻 云々

初春書 二月三日 仙岡おんる

おちよめ 云々 上巻 云々 下巻 云々

閑中書

おちよめ 云々 上巻 云々 下巻 云々

折お書 雲名おんる

おちよめ 云々 上巻 云々 下巻 云々

得書 十五日 仙岡おんる

おちよめ 云々 上巻 云々 下巻 云々

年書 十七日 仙岡おんる

おちよめ 云々 上巻 云々 下巻 云々

書 廿二日 仙岡おんる

おちよめ 云々 上巻 云々 下巻 云々

書 廿三日 仙岡おんる

おちよめ 云々 上巻 云々 下巻 云々

うけつてとて後を以てふとてつてをうけておくれはれ
見形狀云 三月五日 偏南風来

いふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
ねまをいふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
かゝることをいふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ

大抵下つてあることゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
その意をあらわしとてあらはれ

廣文東花 八月七日 福部 亥時

かゝることをいふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
かゝることをいふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
かゝることをいふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ

年神職祝

あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ

史迹花 八月七日 亥時

かゝることをいふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
かゝることをいふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
かゝることをいふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ

井元勢

あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ

松 八月七日 亥時

あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ

田上福 八月七日 亥時

あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ

あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ
あふことゝもしてその意をあらわしとてあらはれ

秋頭の日

（？） 室清に逢ふ

引まゝの程五代やうに繁茂の社乃きも此松
とらゝあゝこの秋の心は誰か松林よりきこへるやう

露光猶菊

（？） 室清

引まゝの程五代やうに繁茂の社乃きも此松
とらゝあゝこの秋の心は誰か松林よりきこへるやう

西東の花よりなやとてなやとてなやとてなやとて

（？） 秋夜に宿る（？） 室清 病中（？） 室清 八月廿一日（？） 室清
（？） 室清 八月廿一日（？） 室清 病中（？） 室清 八月廿一日（？） 室清

田里

九月九日 由良屋

引まゝの程五代やうに繁茂の社乃きも此松
とらゝあゝこの秋の心は誰か松林よりきこへるやう

長雨

（？） 室清 室清に逢ふ

引まゝの程五代やうに繁茂の社乃きも此松
とらゝあゝこの秋の心は誰か松林よりきこへるやう

水

（？） 室清

引まゝの程五代やうに繁茂の社乃きも此松
とらゝあゝこの秋の心は誰か松林よりきこへるやう

田里

九月九日 由良屋

引まゝの程五代やうに繁茂の社乃きも此松
とらゝあゝこの秋の心は誰か松林よりきこへるやう

